廃校となった校舎を活用したコミュニティ施設

かんころの家

佐賀県武雄市西川登町支え合い　かんころの会

生活支援体制整備事業

高齢者　子ども　若者　地域住民
障害者　生活困窮者　認知症の方　その他

基礎情報		
	人口（R7.1月時点）	46,972人
	高齢化率（R7.1月時点）	32.8%
	要介護認定率（R7.1月時点）	18.5%
	取組の予算規模（年間）	400万円

取組概要

- 「かんころの家」は、廃校となった校舎を活用したコミュニティ施設で、通いの場を運営。毎週2回、毎回20名程度が送迎サービスにより集まり、 自由な時間を過ごしている。（体操、おしゃべり、カラオケ等）
- 地域のボランティアが高齢者送迎や通いの場の支援など多様な場面で活躍。
- 農産物直売所として「かんころ市場」も開催される。

背景・きっかけ

- 地域に高齢者の憩いの場やつながりの場がなく、独居老人が増えているという課題を感じていた。ちょうど地域の中心に廃校になった学校があり、ここを活用しようという流れもあり、高齢者にとって思い出がたくさん詰まった学校を「通いの場」として利用した。
- 地域包括ケアシステム構築にあたり、地域住民への困り事アンケートを取り、ニーズを把握し、それを活動につなげた。



かんころの家

取組の経緯

- 地域の高齢者だけでなくその家族にも、今困っていること、これから困るだろうと思っていることなど、より具体的にアンケートで質問した。
- 廃校となっていた中学校校舎を有効利用した。
- 高齢者が利用しやすい施設にするために、助成金や補助金を調査し活用した。

かんころの家
佐賀県武雄市西川登町支え合い　かんころの会

取組詳細

- **取組内容**
  - ✓ かんころ号送迎サービス（通いの場への利用者の送迎。ボランティアが運転を行う。利用料：バス利用料 往復100円＋施設利用料100円）
  - ✓ かんころ市場（かんころの家の農産物直売所。地元住民がつくった新鮮な農産物等を地元に供給することで、高齢者の生きがいや地産地消につなげている。）
  - ✓ 高齢者困り事相談室
  - ✓ 移動スーパー（元民生委員が運営する移動スーパーを誘致）
- **実施体制**
  - ✓ 実施主体：西川登町支え合い　かんころの会（役割：①生活支援、介護予防サービスの把握と創出 ②高齢者ニーズの把握）
  - ✓ 協力団体：武雄市役所健康課、武雄市社会福祉協議会（役割：運営・活動に対する支援、援助）
- **経費・財源**
  - ✓ 武雄市生活支援体制整備事業費

取組のポイント

- **廃校の活用**
  - 廃校を高齢者通いの場「かんころの家」として提供し、町内の拠点として有効活用されている。
- **高齢者の困りごとを解決することで信頼を獲得**
  - 高齢者には難しい給付金手続き支援など、高齢者の困りごとを解決することで、高齢者からの信頼が得られた。

成果

- 定量面：
  - 通いの場利用者は年間94回実施し、参加人員総数は1,984名（令和6年度）だった。一度利用された方は、介護施設入所や死亡されない限り、次回も利用されている。
  - 県内外から参考にしたいと視察が相次いでおり、開設後現在までに40団体がいらっしゃった。
- 定性面：
  - 高齢者送迎や通いの場の支援など、地域のボランティアがたくさん応援していただいており、住民で支える活動として当初目的も達成できている。
  - 利用者や家族の方、また住民の方からの信頼も厚く、用事がなくても気軽に立ち寄れる住民集いの場にもなっている。
  - 医療学校や大学などから高齢者福祉の実習の場としても利用されている。

今後の展望

- 現状を維持継続し、そのなかで新たなニーズが出てきたら、それを可能にするための策を考えていく。
- 高齢の施設利用者を中心に行っている活動なので、更に住民全体に拡大していく必要がある。